

## 令和2年度 西区組織目標

組織名	西 区	区 長	笠原 明夢
組織の目的・方向性	<p>急速な人口減少と共に少子・超高齢化が進む中、都市部と農村部がバランスよく存在し、豊かな自然環境などの西区の特徴を活かし、区ビジョンでの区の将来像「都市と農村が融合する、うるおいの住環境と優れた学術環境に育まれるまち」の実現のため、「人と人がつながり、安心・安全に暮らせるまち」、「都市と農村が融合するまち」、「だれもが学び合える学術と文化のまち」、「豊かな自然と快適な住環境を大切にするまち」、「地域と区役所が共に歩むまち」を目指した「まちづくり」を進めていきます。</p>		

## 西区組織目標

西区では、区の将来像の実現のため、様々な分野での取組を総力あげて進めていきます。

特に、地域のなかで人と人とのつながりを大切に、ともに支え合い、いつまでも元気で健康的に、そして安心・安全に暮らせるまちづくりを進めていきます。

また、地場産農産物のブランド化を進め、生産・消費の拡大とともに、農商工連携による付加価値化や商店街の活性化へ繋げていきます。

この方針のもと、今年度は、次の5つの目標に重点的に取り組みます。

## 重点目標

- 1 高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できる支え合いのしくみづくりを進めます。
- 2 健康寿命の延伸を目指し、健康づくりを推進します。
- 3 子育て中の親の孤独感、不安感を軽減させ、健全な子育てを支援します。
- 4 地域防災力向上のため、津波や洪水などの自然災害から自らの命を守ることができる地域づくりを進めます。
- 5 「くろさき茶豆」や「いもジェンヌ」など西区の特産農産物の知名度向上と消費拡大を推進します。また、農商工連携により高付加価値化・ブランド化に取り組みます。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	4
取組結果	<p>急速に進む人口減少に伴い、少子・超高齢化への対応を中心に様々な施策に取り組みました。</p> <p>超高齢社会への対応では、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できる地域の実現のため、支え合いのしくみづくりの推進に取り組みました。</p> <p>「訪問型生活支援サービスの創出」や「地域の茶の間の増加と拡充」を進めるにあたり、研修会を開催し、地域の皆さま同士の支え合いの必要性や取組事例の紹介のほか、コロナ禍での対応などを周知し支援を行った結果、地域の皆さまのご協力により、今年度で新たに5件の「地域の茶の間」の開設や、3件の毎週開催への拡充をいただき、平成29年度からの累計が52件となり、目標を達成することができました。地域ではコロナ禍の中で、感染対策や茶の間のあり方の検討のほか、「訪問型生活支援サービス」は、創出に向け具体的な検討が始まっています。</p> <p>人生100年時代が到来し超高齢社会を迎える中、区民の皆さまがいつまでもお元気で長生きしていただけるよう、健康寿命の延伸のため、健康づくりと介護予防に取り組みました。特定健診の受診率向上に向けて、未受診者への健康に対する意識付けが必要なことから、地域でロコミで健康づくりの必要性の発信や周知を行っていただく「健康リーダーの育成」に取り組み、延95人の方が受講し地域で活動をいただいたほか、区の保健師によりモデル地区(中野小屋・黒埼・小新)の3年連続未受診者に対し、全ての方に受診の必要性の説明とともに受診勧奨を行いました。区民の健康づくりでは、「西区健康生き生きチャレンジ事業」としてウォーキングやロコモ予防などの教室のほか、高齢者の介護予防自主グループや自治会などからの依頼に応じた出張健康相談などを実施しました。また、血糖・脂質・血圧が有所見であるハイリスク者が多いという西区の健康課題を踏まえ、「ハイリスク者健康相談」などを実施し、区民の健康寿命の延伸に取り組みました。新型コロナウイルス感染予防のため定員数を少なくするなどの対策をとりながらの実施となりましたが、延919人の方から参加いただき、好評を得ることができました。</p> <p>少子化に対応した子育て支援では、乳児期から学齢期(前期)までの各期にわたる子育て支援講座を実施しました。また、妊娠期から3歳未満の子育て中の方を対象としたLINEによる情報配信「にしっこはぐくみLINK」に新たに1,480人の区民からご利用いただき、令和元年7月の開設からの累計登録者は3,520人となりました。目標を大きく上回る区民にご利用いただき、子育て中の親の孤独感、不安感の軽減や、健全な子育てを支援しました。</p> <p>防災関連では、昨年度6月の山形沖地震や10月の台風19号などに続き、今年度は7月豪雨や1月の大雪などの自然災害が発生し、防災・減災に向けた日頃の備えが必要となっています。地域防災力の向上のため、自然災害から自らの命を守ることができる地域づくりを進めるため、「地域の避難マップ」の作成を希望する自主防災組織に対し、区から防災専門家を派遣し、目標の9地域で作成していただきました。作成は感染症対策を講じたうえワークショップ形式で実施し、地域の皆さまが専門家のアドバイスを受けながら、お住いの地域の自然災害の特徴や避難行動について話し合い、避難マップの作成とともに防災意識の向上も図ることができました。</p>				

産業の振興では、国の地理的表示保護制度の登録産品「くろさき茶豆」や、食と花の銘産品「いもジェンヌ」をはじめとする、西区の特産農産物のPR・販売促進活動を、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえ、マスコミによるPR番組やテレビCMのほかSNSなど様々な媒体を活用した新たな手法で積極的に展開し、目標を超えて特産農産物の発信と消費拡大に取り組みました。

また、「くろさき茶豆」の一層の知名度向上や消費拡大を目指し、これまでの「くろさき茶豆夏の陣」など集客による販売促進活動は、新型コロナウイルス感染防止のため開催できませんでしたが、JAや商工会などで構成する「くろさき茶豆農商工連携協議会」とともに、メディアへの出演やプレゼント企画への出展などを行い、コロナ禍の中でも一層の消費拡大に取り組みました。

「いもジェンヌ」では、「いもジェンヌ農商工連携協議会」とともに生産や消費の拡大を目指し、新型コロナウイルス感染防止のため、これまでの「農業まつり」に代えてキャンペーンを実施したほか、区内の全小学校で「西区一斉いもジェンヌの日」を開催するなど、食育の推進にも取り組みました。いもジェンヌの栽培面積は、近年減少傾向にありましたが、新たな生産者が加わり、今年度は増加に転じています。

新型コロナウイルスの影響で、「地域の茶の間」をはじめとした地域の多くの活動が、中止や延期がされてきました。コロナ禍であっても、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できる支え合いのしくみづくりを進めるため、感染防止を踏まえた新たな手法でのつながりづくりをモデル実施するほか、引き続き、区民の皆さまから支え合いのしくみづくりをご理解いただくための研修会を開催するとともに、啓発パンフレットを活用しながら、支え合いのしくみづくり推進員と協働で、地域での支え合い活動の維持と一層の推進を図っていきます。

健康寿命の延伸や健康づくりの推進には、自らの健康状態を知ることが大切であることから、引き続き特定健診受診率の向上に向けて、未受診者への受診勧奨の取り組みのほか、あらゆる角度から健康づくりを支援するため、様々な専門職種が担当する健康教育や区民目線で健康づくりを発信・周知する「応援隊」の育成を充実します。

また、健康の増進に向けて、日常生活の中で取り組みやすいウォーキングについて、コロナ禍の中でも安心・安全に基礎からウォーキングを学び、継続して楽しく実践できるよう、DVDの作成をはじめ遊歩道の環境整備やウォーキングイベントなどに新たに一体的に取り組めます。

子育て支援では、子どもの各年代に対応した子育て支援講座を開催するほか、「にっこはぐくみ LINK」の内容や広報の充実を図っていきます。また、地域子育て支援センター等において「プレママ・プレパパ教室」を開催し、出産後スムーズに子育て支援センターへ相談・利用していただくことで、切れ目のない支援を進め、育児の不安や孤独感の軽減、仲間づくりに取り組んでいきます。

地域防災力の向上に向けて、「地域の避難マップ」の作成については、作成を希望する地域の存在に加え、地域の防災意識の向上に効果があることから、次年度も引き続いて取り組みます。また、区内の各避難所において、想定避難者数に対応した備蓄に過不足があったことから、各避難所の適正備蓄に取り組めます。

産業の振興では、「くろさき茶豆」をはじめとする西区特産農産物のさらなる知名度向上のため、コロナ禍であっても、メディアやSNSを積極的に活用し、市内及び首都圏へ向けたPRを実施するとともに、農商工連携をはじめ県・銀行などとの連携により、高付加価値化とブランディングの確立を進めます。また、新たにSNSを活用した購買につながるシステム作りに取り組めます。